

網袋を用いたアサリ採苗試験

1 目的

砂利や軽石を入れた網袋を海底に設置することで、アサリ種苗を採苗することを目的に試験を実施し、令和元年度は網の種類と設置場所を検討した。

なお、令和2年度はコロナウィルスの影響により試験は中止となった。

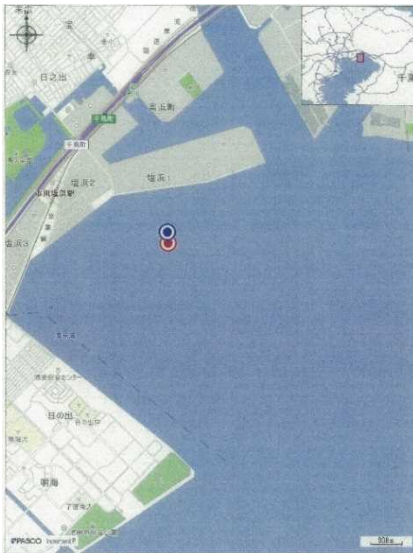
2 事業主体

市川市行徳漁業協同組合

3 期間

令和元年6月～令和元年12月

4 場所



試験場所：市川ふ頭前に2点●●の地点

5 方法

(1) 網袋の種類

- ・ラッセル編網袋（目合4mm）
- ・アサリ出荷用網袋（目合12mm モノフィラメント）

(2) 基質

- ・径約9mm軽石2.5リットル＋砂利2.5リットル

(3) 設置方法 網袋を2本のコンポーズパイプに結ばれたロープを用いて万国旗状に海底へ設置

(4) 試料採取

- ・設置場所（沖，岸），種類（ラッセル編網袋，アサリ出荷用網袋，対照（周辺域））ごとに3袋（点）試料を採取，固定し，アサリの着底数を確認した。

6 結果

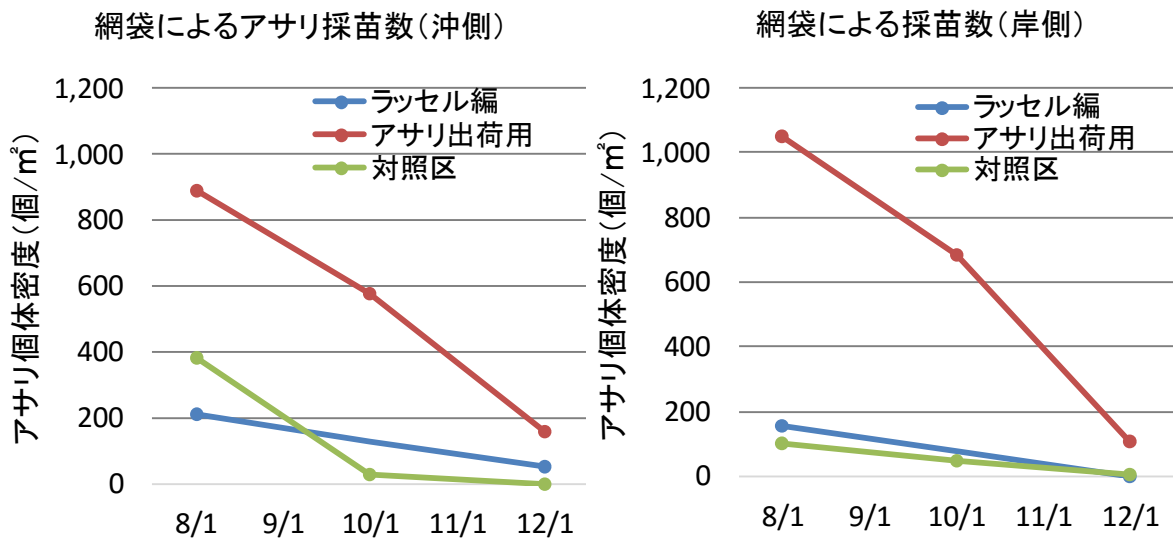


図 網袋による面積当たりアサリ採苗数の推移 (左：沖側 右：岸側)

網の材質

試験期間を通じてアサリ個体数は、アサリ出荷用網袋がラッセル編網袋の個体数を上回った。

ラッセル編網袋は目詰まりしやすい。

(特に10月29日以降の調査では、台風19号に起因する出水により浮泥が付着した。)

終了時における個体密度について、対照区は沖・岸ともに5個/㎡を下回ったのに対し、アサリ出荷用網袋内は20倍を上回る100~160個/㎡前後のアサリが確認された。

ラッセル編網袋は、平均では26個/㎡であったが、沖側で52個/㎡のアサリが確認されたのに対して、岸側は0個/㎡だった。浮泥の付着量に関しては、沖側よりも岸側の方が多かった。

設置場所

岸側のほうが沖側よりも採苗数が多かった。

ただし、出水の影響は岸側の方が沖側よりも受けやすかった。

7 今後の方針

将来的に安定してアサリ種苗が採捕されれば、冬季減耗を防ぐための網袋による中間育成に取り組むこととしたい。